

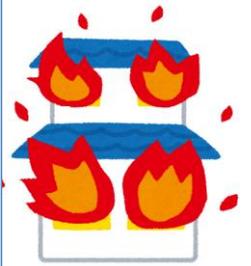
くらしの窓すぎなみ

編集・発行：杉並区立消費者センター
杉並区天沼 3-19-16 ウェルファーム杉並 3 階
tel.03-3398-3141

臨時 2022.11 NO.216
令和 4 年 11 月発行



気をつけよう！ 冬の製品事故



冬は、電気やガス、石油などを使った暖房器具の使用頻度が増える季節です。身近な製品の中には、使用方法を誤ると思わぬ事故につながる危険があります。

家庭でこんな製品事故が！

○カセットコンロのボンベが正しく装着されていなかったため、ガスが漏れてコンロから発火。



○カセットコンロの五徳を裏返しにしたまま使用。カセットコンロがフライパンに接触状態で加熱され、ボンベが爆発。

○電気こたつに座布団や座椅子を押し込んでしまい、火災が発生。

爆発・発火

○電気コードがねじれたり、家具などで踏みつけていたため、コードが切れかかり断線して熱を持ってしまい、発火。

○洗剤や手洗いの水が電源プラグにかかって、**トラッキング現象**（裏面参照）により出火。

○電気あんかを保管する際に、本体にコードを巻いて収納したら、つけ根部分が断線し、発火。



断線
トラッキング

○石油暖房器具のカートリッジの蓋の締め付けが不十分で、灯油が漏れが生じ、灯油に火が付き火災が発生

○ファンヒーターの前に置いていたスプレー缶がヒーター熱で加熱され破裂し、ファンヒーターの火が引火。



○電気ストーブの近くに干していた洗濯物がストーブに接触し、火災が発生。



引火

中毒・やけど

○ガス・石油暖房器具で、換気を行わず長時間使用し、不完全燃焼による一酸化炭素中毒事故が発生。

○湯たんぽや電気あんかで長時間接触したため、低温やけどを負った。



事故防止のために！

わかっているけど、つい忘れがち！



- カセットボンベの取り付けや、コンロの五徳の位置は正しく。
- 燃焼器具を使う時には、こまめに換気（1時間に1～2回）。
- 燃焼器具の周辺に洗濯物や燃えやすい物をおかない。スプレー缶も置かない。
- 低温やけどを防ぐために、電気暖房器具で長時間同じ部位を温めないようにする。
 - ★低温やけどには 44℃では 3～4 時間以上、46℃では 30 分～1 時間、50℃では 2～3 分であるとされています。
- 電気暖房器具は就寝時にはスイッチを切り、外出時には電源プラグを抜く。



トラッキング現象とは？

テーブルタップやコンセントに電源プラグを長時間差し込んだままにしておくと、ほこりがたまり、そこに水滴や湿気が加わると電流が流れて発火する現象。電源プラグの周辺にほこりがたまらないように、定期的に掃除を！

～ 11月 は「製品安全総点検月間」です～



◆家電製品にも寿命があります。

- ◇これからの寒い冬に欠かせない暖房器具で、電気こたつや電気カーペット、電気毛布は使用前に必ず点検しましょう。
- ◇電子レンジ、冷蔵庫、テレビ、洗濯機などの身近な家電製品も、定期的にチェックしましょう。

◆長期使用製品安全表示制度

経年劣化による重大事故が多くはないものの、長期間使用されることが多い家電5品目

- ①扇風機 ②換気扇 ③洗濯機(洗濯乾燥機除く)
- ④エアコン ⑤ブラウン管テレビ

を対象に、注意喚起として右のような製品本体への表示が義務付けられています。(平成21年4月1日以降に製造・輸入されたもの)

少しでも異常があれば使用を中止し、販売店またはメーカーに相談しましょう。

【長期使用製品安全表示制度の表示例】



【製造年】 20××年
【設計上の標準使用期間】 △△年
設計上の標準使用期限を超えて使用されますと、経年劣化による発火・けが等の事故に至るおそれがあります。

<参考>東京くらしねっと 政府広報オンライン 消費者庁 HP

杉並区立 消費者センター

相談専用 03-3398-3121



相談受付時間 午前9時～午後4時(土曜・日曜・祝日・12/29～1/3は休み)